

参考資料

整備新幹線の整備

- 平成22年度において2,388kmである新幹線路線延長を平成27年度末までに2,765kmに延伸。
- 新幹線鉄道規格新線の整備を行っている九州新幹線武雄温泉・諫早間については、平成20年3月の認可から概ね10年程度で完成予定。

【新幹線開業状況】

路線	区間	開業年月日
東海道新幹線	東京～新大阪	S39.10.1
山陽新幹線	新大阪～岡山	S47.3.15
	岡山～博多	S50.3.10
東北新幹線	大宮～盛岡	S57.6.23
	上野～大宮	S60.3.14
	東京～上野	H3.6.20
	盛岡～八戸	H14.12.1
	八戸～新青森	H22.12.4
上越新幹線	大宮～新潟	S57.11.15
北陸新幹線	高崎～長野	H9.10.1
九州新幹線	新八代～鹿児島中央	H16.3.13
	博多～新八代	H23.3.12

九州新幹線 (長崎ルート)

○武雄温泉・諫早間
<45km>
〔平成20年3月の認可から
概ね10年程度で完成予定〕

武雄温泉
諫早
博多
新鳥栖
新八代
鹿児島中央

北陸新幹線

○長野・金沢間

<228km>
平成26年度末完成予定

白山総合車両基地

北海道新幹線

○新青森・新函館間
平成27年度末完成予定

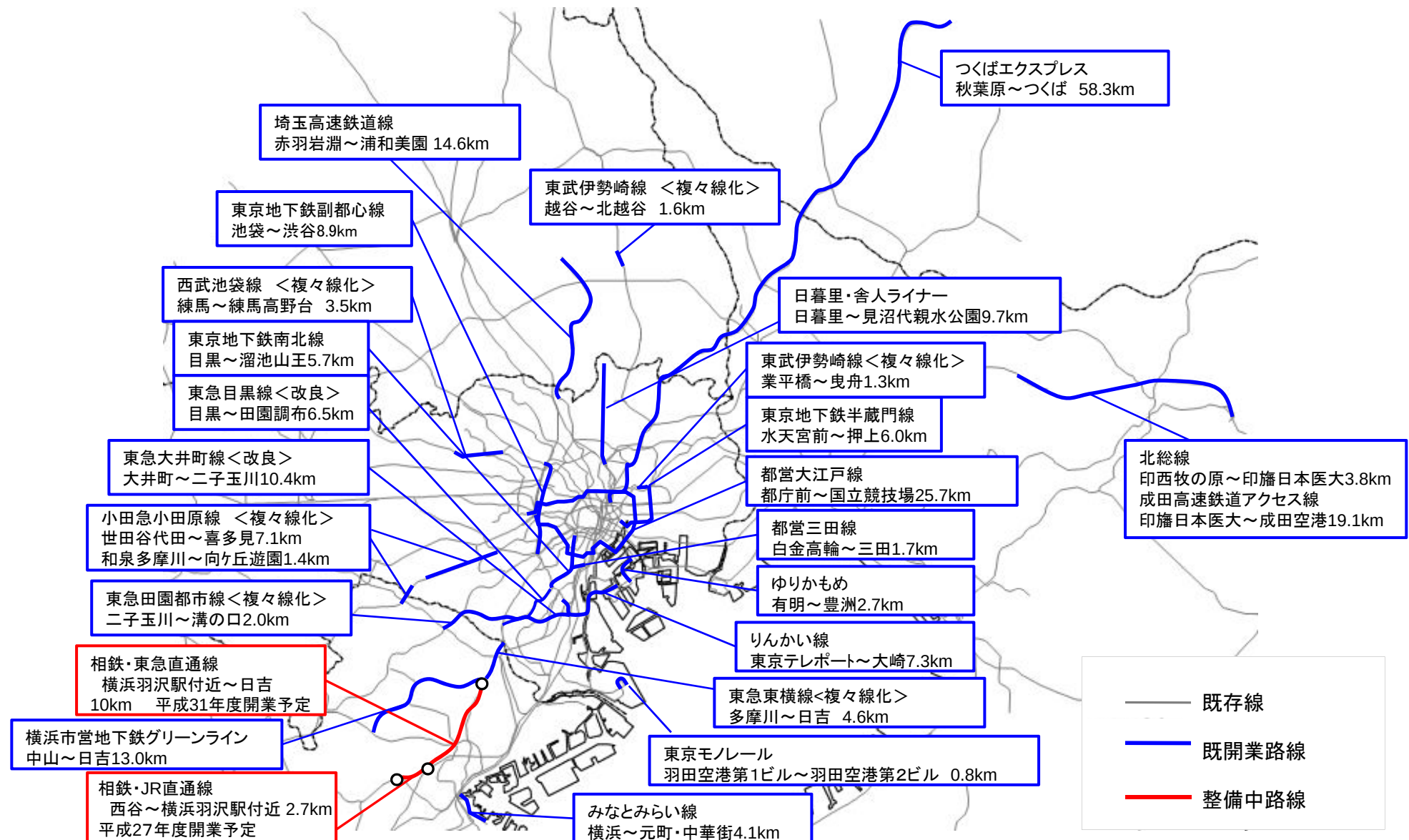
<149km>
新函館
新青森
八戸

凡 例

- 開業区間
- 建設中区間
- 建設中区間 (新幹線鉄道規格新線)

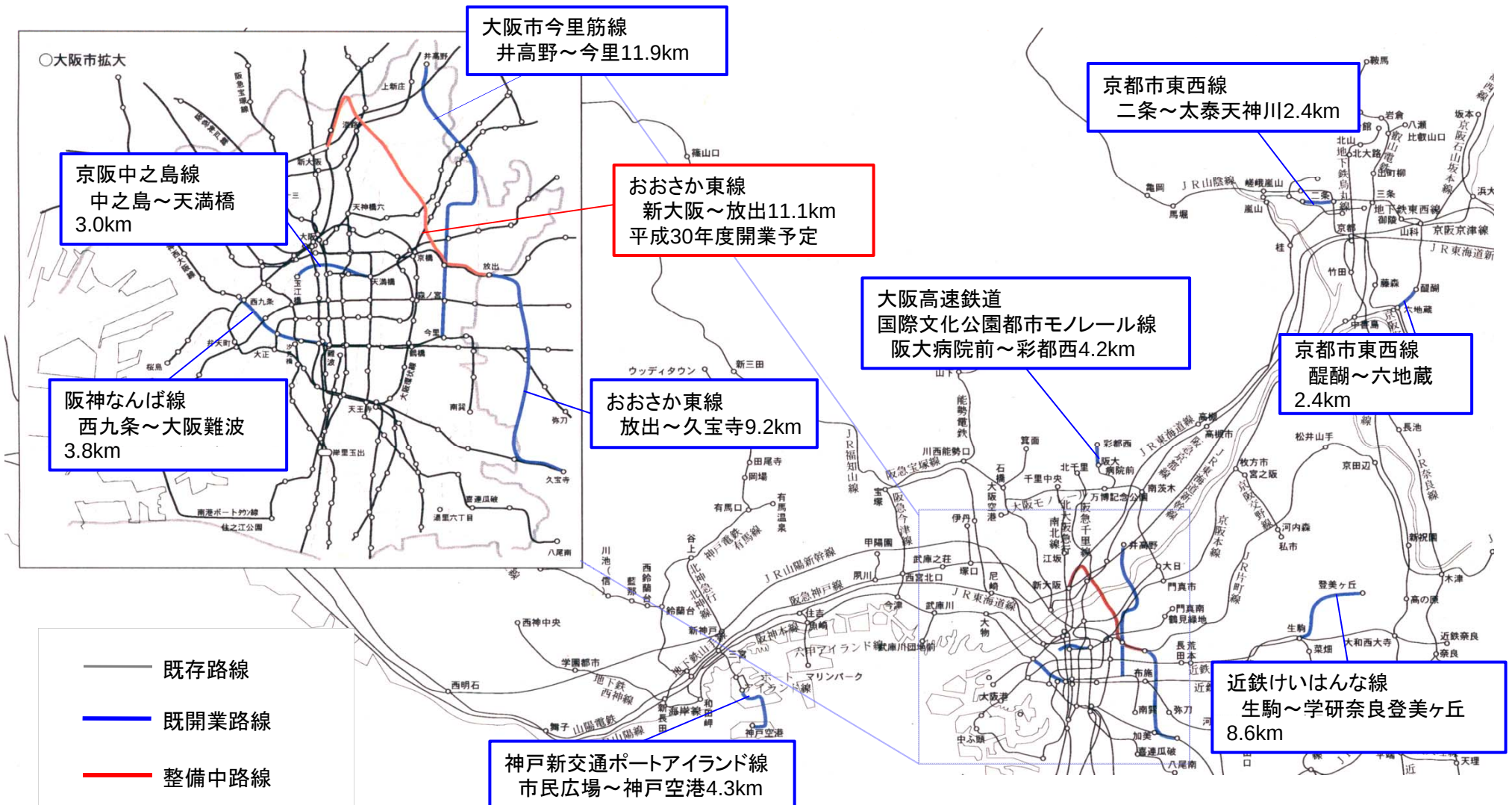
都市鉄道ネットワークの整備(東京圏)

- 運輸政策審議会答申第18号に盛り込まれている路線のうち、平成22年度における営業路線は219km。
- 平成31年度までに、現在整備中の路線12.7kmを整備。



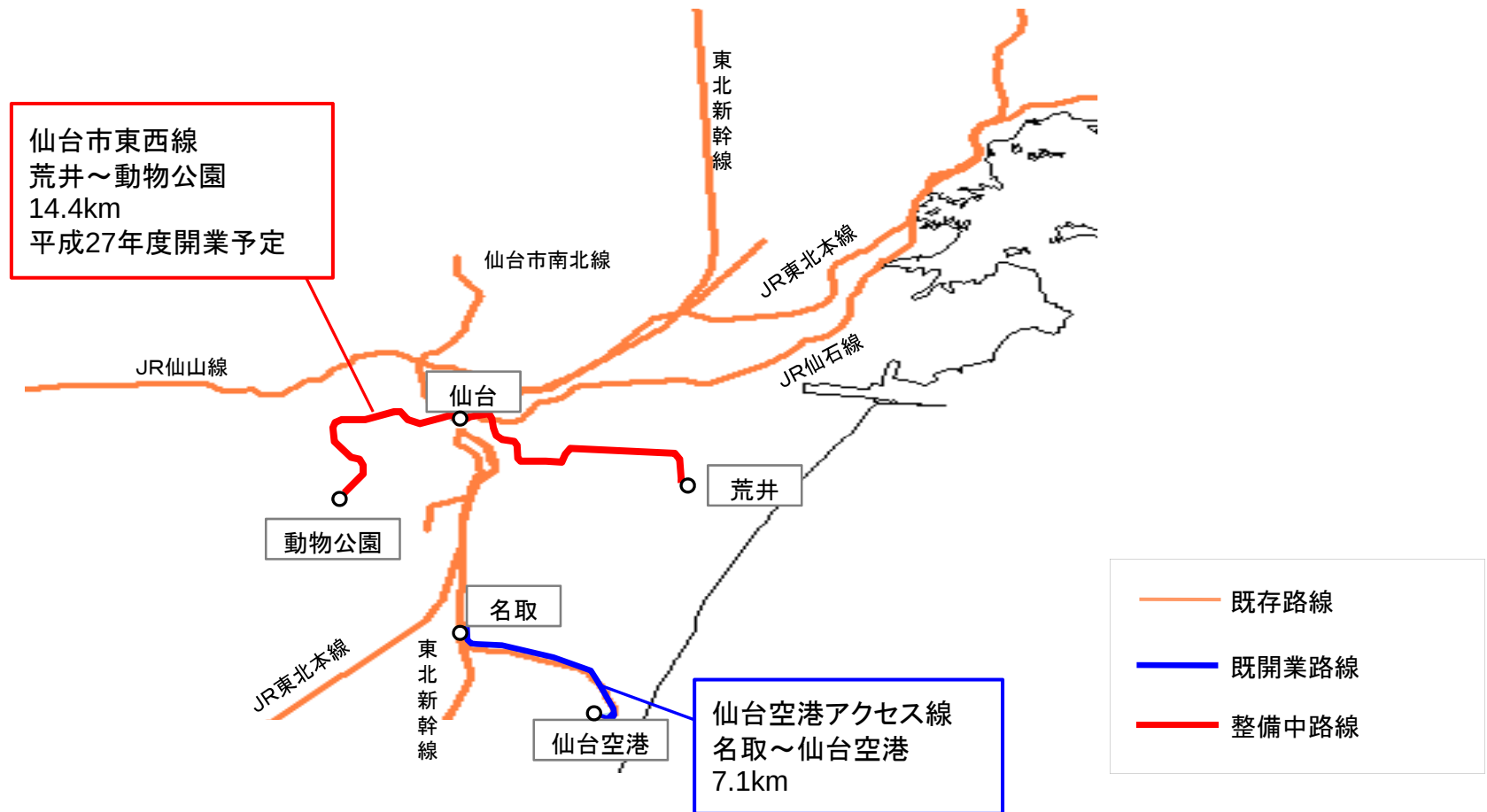
都市鉄道ネットワークの整備(大阪圏)

- 近畿地方交通審議会答申第8号における事業中路線のうち、平成22年度における営業路線は49.8km。
- 平成31年度までに、現在整備中の路線11.1kmを整備。



都市鉄道ネットワークの整備(仙台圏)

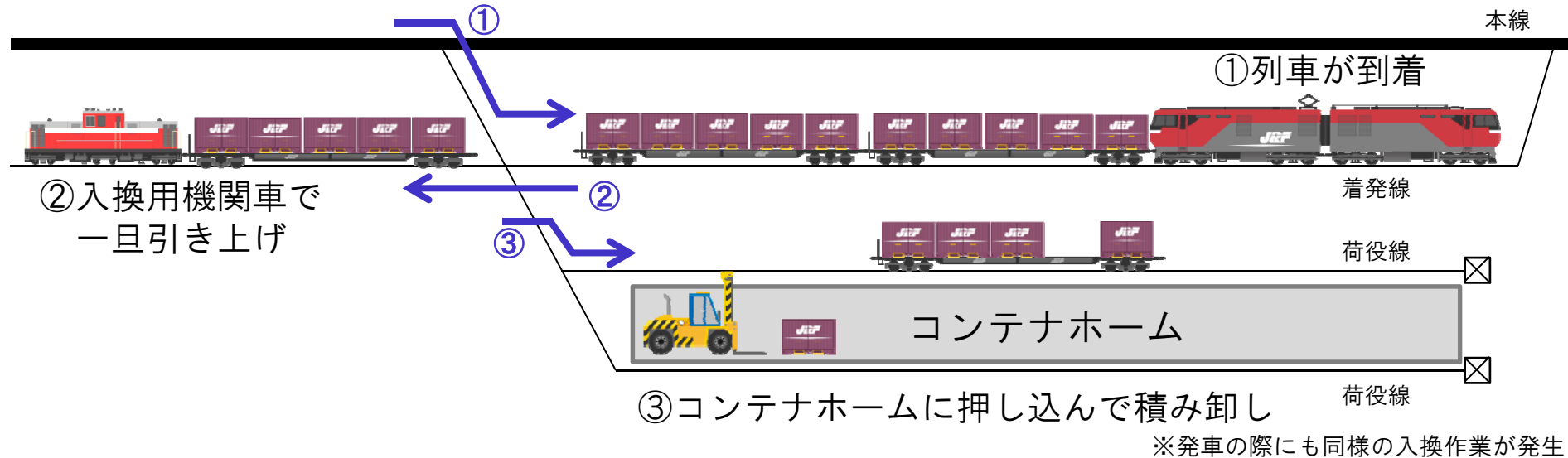
- 東北地方交通審議会平成11年答申に盛り込まれている路線のうち、平成22年度における営業路線は7.1km。
- 平成31年度までに、現在整備中の路線14.4kmを整備。



E&S方式(Effective & Speedy Container Handling System)の概要

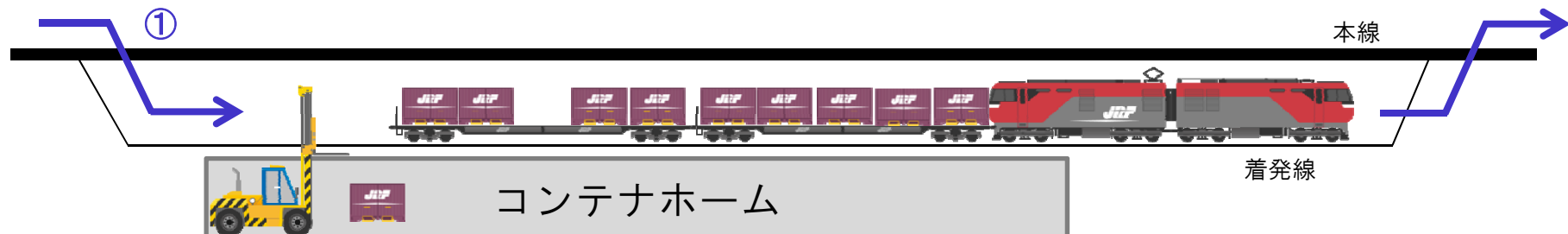
従来の非効率的な貨物駅

○荷役線が行き止まりとなっており、貨物列車が本線へ通り抜けることができないため、機関車の付け替え等複雑な入換作業が必要となり、作業時間及びコストの面で課題が存在。



E & S 方式の貨物駅

○貨物列車の着発線にコンテナホームを設けることにより、複雑な入換作業が不要となることから、作業時間の短縮及びコスト削減が実現。



E&S方式の貨物駅の整備

- 主要幹線における貨物駅を中心として、平成23年度までにE&S方式の貨物駅を27駅で整備。
- 現在、大阪府において2駅を整備中。投資効果等を踏まえた上で、今後の整備対象駅を検討中。



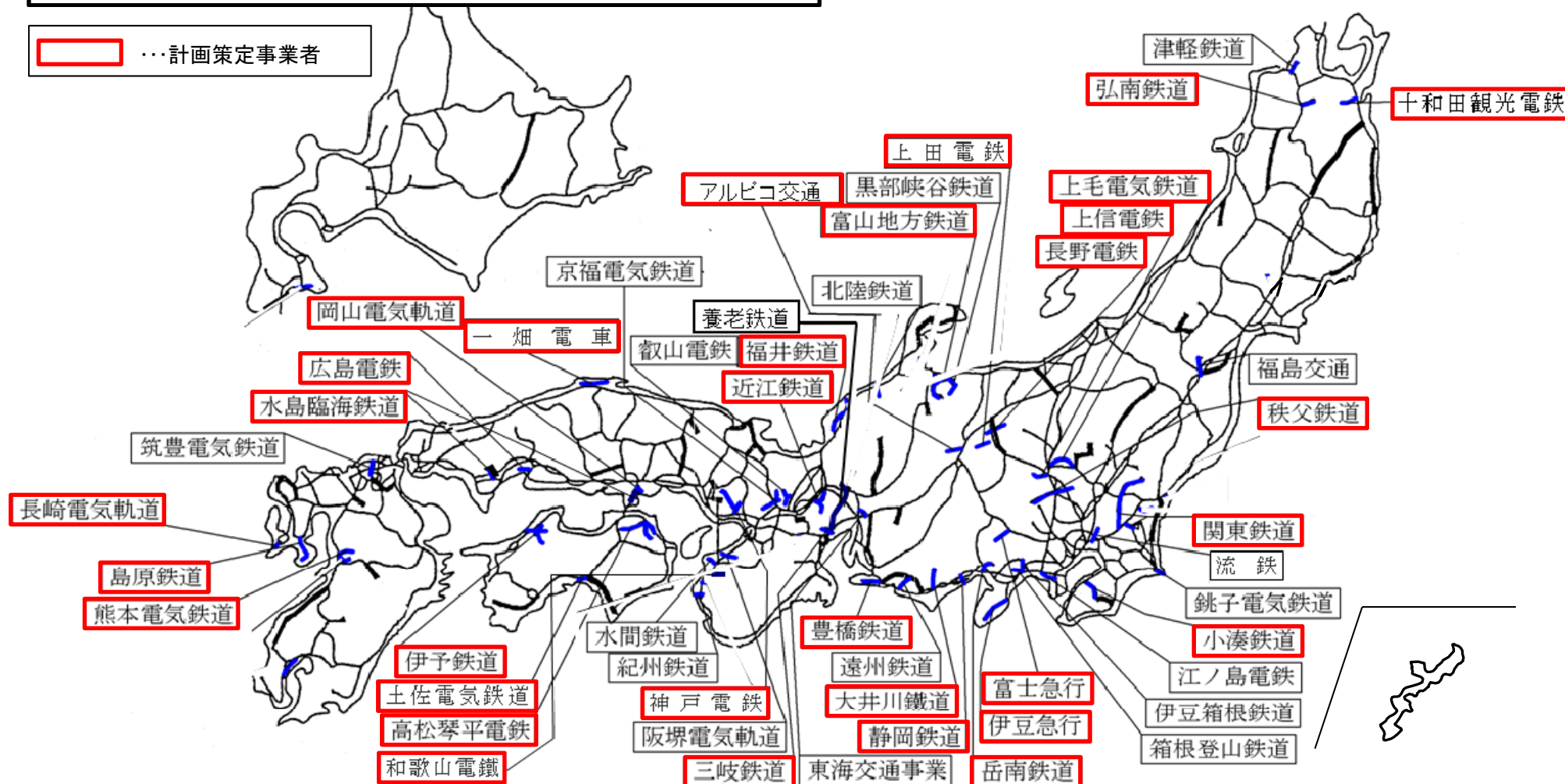
地域鉄道の活性化・維持再生（中小民鉄）

○地域鉄道事業者が地方公共団体と連携し、鉄道を活性化するために策定する計画※の策定割合は、平成22年度において75%。

○平成26年度までに同計画の策定割合を概ね80%に向上。

※再生計画、LRT整備計画又は地域公共交通総合連携計画のいずれか

平成22年度における 計画策定事業者 位置図（中小民鉄32/50社）



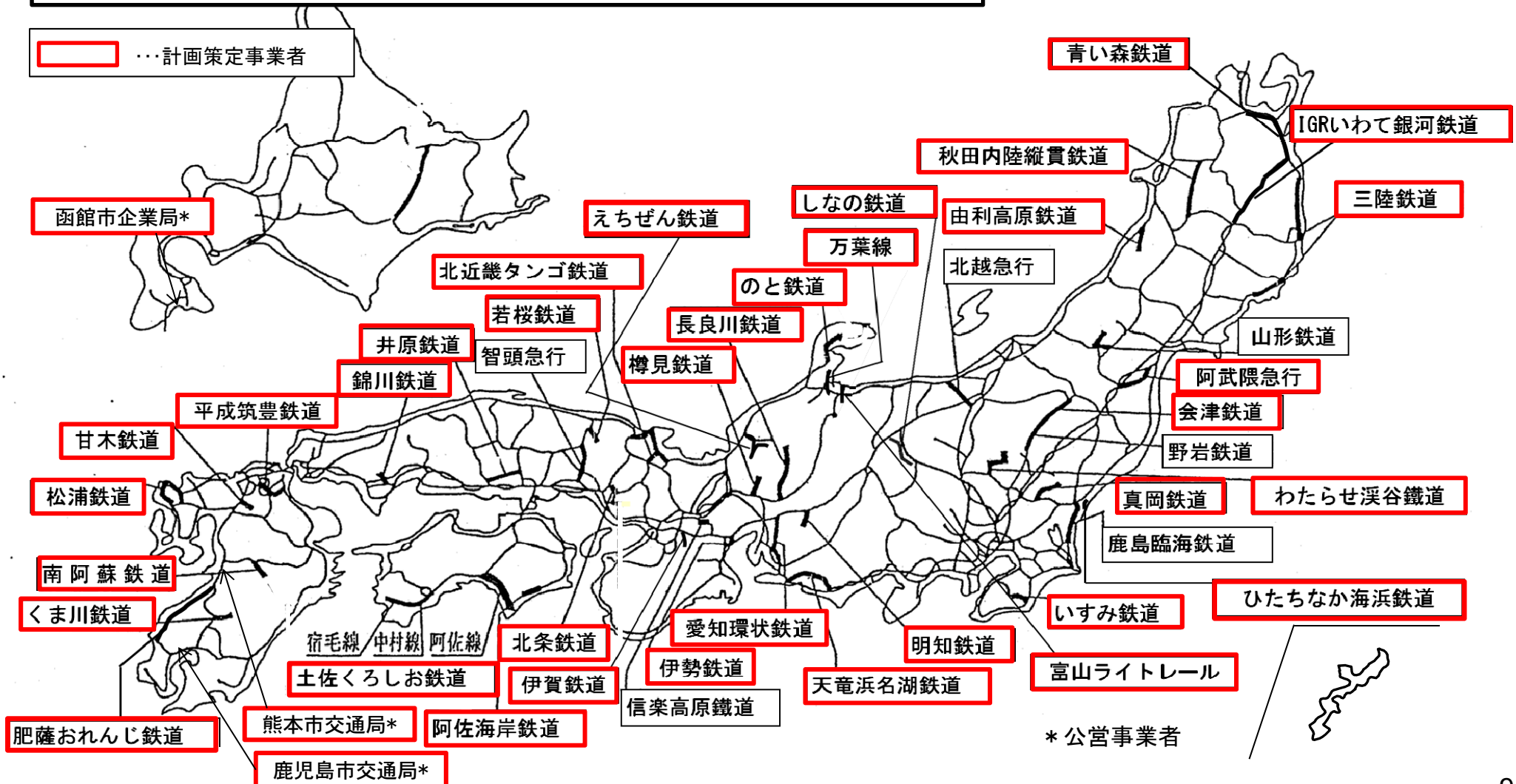
地域鉄道の活性化・維持再生（第三セクター鉄道等）

○地域鉄道事業者が地方公共団体と連携し、鉄道を活性化するために策定する計画※の策定割合は、平成22年度において75%。

○平成26年度までに同計画の策定割合を概ね80%に向上。

※再生計画、LRT整備計画又は地域公共交通総合連携計画のいずれか

平成22年度における 計画策定事業者 位置図（第三セクター鉄道等39/45社中）



鉄道駅の高度化に関する整備状況一覧

○鉄道利用者の利便の向上を図るため、平成23年度までに17駅で鉄道駅の改善等の整備が完了予定。
○平成24年度以降、平成28年度までに約8駅で整備を実施予定。

○鉄道駅の総合改善

都市側の事業と一体的に鉄道駅のホームやコンコースの拡幅等を行い、駅機能を総合的に改善

○駅空間の高度化(コミュニティ・ステーション化)

既設の鉄道駅の改良時に、保育施設等地域のニーズにあった生活支援機能を付加

○乗り継ぎ円滑化

鉄道路線間の乗り継ぎ負担を軽減するため、駅の移設等の事業を実施

○交通結節機能の高度化

乗り継ぎ円滑化のための経路の改善等既存駅の改良を駅周辺整備と一体的に行うことにより、交通結節機能の高度化を推進

○列車遅延の拡大防止

ホームの増設・拡幅等により旅客流動の円滑化を図ることで、列車の遅延を防止

岩屋駅(阪神本線)
平成11~13年度
鉄道駅の総合改善

尼崎駅(阪神本線)
平成13~20年度
乗り継ぎ円滑化

三宮駅(阪神本線)
平成17~24年度
交通結節機能の高度化

舞子公園駅(阪神本線)
平成11~13年度
鉄道駅の総合改善

三田市町駅(南海高野線)
平成17~18年度
鉄道駅の総合改善

甲子園駅(阪神本線)
平成23~28年度
鉄道駅の総合改善

春日野道駅(阪神本線)
平成11~17年度
鉄道駅の総合改善

西宮北口駅(阪急神戸線)
平成19~22年度
鉄道駅の総合改善

岩瀬浜駅(富山ライトレール)
平成17年度
乗り継ぎ円滑化

京急蒲田駅(京急本線)
平成13~25年度
鉄道駅の総合改善

関内駅(JR東日本根岸線)
平成23~28年度
駅空間の高度化

横浜駅(京急本線)
平成13~19年度
鉄道駅の総合改善

日暮里駅(京成本線)
平成14~21年度
鉄道駅の総合改善

下井草駅(西武新宿線)
平成16~18年度
鉄道駅の総合改善

東長崎駅(西武池袋線)
平成16~19年度
鉄道駅の総合改善

江古田駅(西武池袋線)
平成19~22年度
鉄道駅の総合改善

野方駅(西武新宿線)
平成19~22年度
鉄道駅の総合改善

椎名町駅(西武池袋線)
平成20~23年度
鉄道駅の総合改善

平良駅(広島電鉄)
平成16~17年度
乗り継ぎ円滑化

西桑名駅(三岐鉄道)
平成23~28年度
乗り継ぎ円滑化

高蔵寺駅(愛知環状鉄道)
平成12~16年度
乗り継ぎ円滑化

尾張瀬戸駅(名鉄瀬戸線)
平成11~13年度
鉄道駅の総合改善

門前仲町駅(東京外環東西線)
平成21~25年度
列車遅延の拡大防止

茅場町駅(東京外環東西線)
平成22~28年度
列車遅延の拡大防止

勝どき駅(都営大江戸線)
平成22~27年度
列車遅延の拡大防止

平成22年度まで又は平成23年度中に
整備完了(予定)の駅(17駅)

平成24年度以降に整備完了予定の駅(8駅)

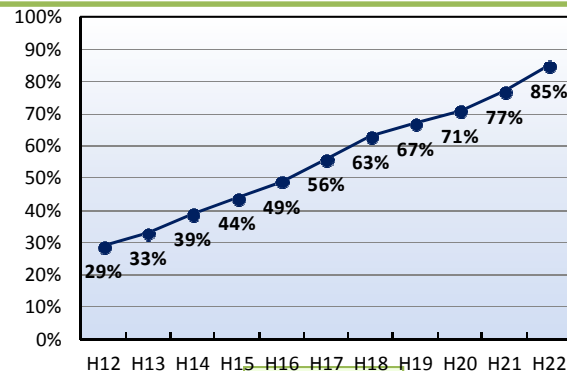
鉄道分野のバリアフリー化の状況

- 1日当たりの利用者数が5,000人以上の駅については、平成22年度末に約9割の駅でバリアフリー化が完了。
- 今後は、本格的な高齢化社会の到来に鑑み、地方部において更なるバリアフリー化を進めるため、「1日当たりの利用者数が3,000人以上の駅でバリアフリー化を推進」という新たな整備目標を平成23年3月に設定。
- 車両については、平成22年度末に5割がバリアフリー化され目標は達成。今後の整備目標は、約70%に設定。

鉄軌道駅

これまでの目標

1日平均利用者数5,000人以上の鉄軌道駅(例: 蕨崎駅、東武伊勢崎駅)を、原則として、全てバリアフリー化 (約2,800駅)



新たな目標(平成23年度以降)

3,000人以上の駅(例: 山口駅、釧路駅)を原則として全てバリアフリー化

この場合、地域の要請・支援の下、鉄軌道駅の構造等の制約条件を踏まえ可能な限り整備

(5,000人以上 約2,800駅(うち約9割は完了))
(3,000人~5,000人 約650駅)

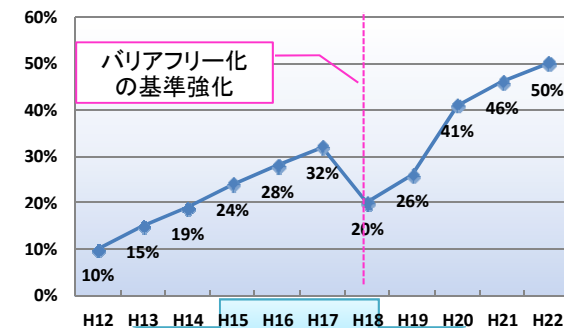
ホームドア・可動式ホーム柵について優先すべき駅を検討し、可能な限り整備

鉄道のサービス面、技術面、経済面を総合的に勘案した上で整備

鉄軌道車両

これまでの目標

約50%の車両をバリアフリー化(車いすスペースの確保等)
(全体数: 約52,000両)



新たな目標(平成23年度以降)

約70%の車両(約36,400両)をバリアフリー化

